

石川県イノシシわな捕獲マニュアル

平成27年10月



石 川 県

マニュアルについて

本マニュアルは、里に出て田畑を荒らしているイノシシの捕獲を促進し、直接的な被害を減らすため、わなによるイノシシの群れ捕獲の技術向上を図ることを目的に作成しました。

里で農作物等を食べることを覚えたイノシシは、その子どもも里をエサ場とするようになります。さらに、栄養化の高い農作物等を食べるようになると、生まれる子の数や生息数が急増し、被害も急激に拡大します。

田畑を守らないまま、生ゴミ等を放置したままでは、捕っても捕っても被害はなくなり、『いたちごっこ』になってしまいます。

捕獲は、まず防護柵を設置し、生息地の環境管理とあわせて行うと効果的です。

また、捕獲したイノシシを食用等に活用※することは、処分費用の軽減だけでなく、捕獲や被害防止にあたる方々の意欲向上や、捕獲数の増加につながることを期待されます。

このマニュアルが、有害鳥獣捕獲に携わる皆さまの捕獲技術向上の一助となれば幸いです。

※利用にあたっては、「石川県野生獣肉の衛生管理及び品質確保に関するガイドライン」(<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/eisei/guideline.html>)を参考にしてください。

目次

■ イノシシを知る	2
■ わな捕獲の実践	3
■ 箱わな・罠いわなの捕獲フロー	6
■ 箱わな、罠いわなの捕獲手順	7
■ くくりわなの捕獲フロー	15
■ くくりわなの捕獲手順	16
■ 注意事項・捕獲のマナー	23
■ 資 料	24
1. 石川県のイノシシの捕獲と被害状況	25
2. イノシシのフィールドサイン	26
3. 関係行政機関連絡先	28

イノシシを知る

生態

- ・ 頭胴長 120 ～ 150cm、体重 50 ～ 100kg。
- ・ 野生の平均寿命はオスが約 6 歳、メスが 10 歳。

食性

- ・ 雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べる。
イモ類やタケノコ、イネの穂、さらには昆虫の幼虫等、草や木も食べる。

行動と特性

- ・ 昼夜を問わずエサを求めて活動するが、本来警戒心が強く、臆病で注意深く、人前には姿を現さない。

※一旦慣れると大胆不敵になる。

- ・ 行動範囲は周囲2～3km、時に広がる。
- ・ 柵等の障害物は上を超えるよりも、下をくぐって通り抜けようとする傾向あり(非常事態には、助走せずに1mもの柵を飛び越える)。

※幼獣は 15cm 格子を通り抜け、成獣は 20cm 程度の隙間は潜りぬける。

- ・ 鼻は犬並みの鋭い嗅覚を持ち、臭いをかぐだけでなく、土を掘ったり、重い岩石等を動かす時にも使う。

※50 ～ 60kg の重さを押し動かすことができる。

- ・ 鼻先は敏感で電気刺激には弱い。
- ・ 海や湖を泳ぐこともできる。
- ・ 「猪突猛進」はパニックになって逆上した時の姿。
- ・ 体毛は太く剛毛。体が電気柵で触れても平気。



繁殖

- ・ 年1回(条件により2回確認されることもある)の繁殖。
交尾期は 12 ～ 2月頃、出産期は4～6月頃。
- ・ 2歳で初産、平均4～5頭出産と多産。約半数が成獣に。

わな捕獲の実践

わな捕獲の実践

イノシシを捕獲する方法は銃と、わなに大きく区分されます。本マニュアルでは、里山周辺で被害を出している特定個体を捕獲し、被害を軽減することを目的とするため、わなによる捕獲方法をまとめました。

わなの種類

イノシシを捕獲するわなには、「箱わな」「囲いわな」「くくりわな」があり、設置する場所の広さや管理の都合、捕獲体制等を考慮に入れて、どの種類のわなをどの場所で使用するか決定します。

《各わなの特徴》

	①箱わな	②囲いわな	③くくりわな
イメージ図			
期待できる捕獲数	1~2頭程度 ※本来群れごと捕獲	1~5頭程度	1頭
餌付け	必要		不要
利点	移動・運搬が容易	面積が広いので、一度にたくさん捕獲が可能	・小型軽量で安価 ・一人でも設置可能
課題	イノシシの群れ捕獲を目指す時には、足跡全てが箱わなに入るまでの見極めが必要（一度に捕獲できる頭数が少ない）	・イノシシの群れ捕獲を目指す時には、足跡全てが箱わなに入るまでの見極めが必要 ・わなの設置や解体、移動、捕獲個体の殺処分に労力がかかる	・捕獲個体の殺処分作業に注意が必要 ・クマ・カモシカの生息地では、錯誤捕獲に注意 ・放獣作業が必要となる

【注意！】

◆ツキノワグマの錯誤捕獲対策

檻の天井中央に直径約30cmの脱出口を設けた「箱わな」「囲いわな」を使用すること。

◆標識の装着、立て札等の設置、

- ・わなには、猟具ごとに1文字1cm角以上の大きさで、『住所、氏名、登録知事名、登録年度、登録番号』を明記した金属製またはプラスチック製の標識をつけること。
- ・くくりわなの場合、わなを設置している場所が分かりづらいため、見やすい場所に立て札等を設置して、事故の未然防止に努めること。

◆禁止猟法となるくくりわな

- ・輪の直径が12cmを超えるもの
- ・締付け防止金具が装着されていないもの
- ・よりもどしが装着されていないもの
- ・ワイヤーの直径が4mm未満であるもの

① 箱わな例



設置環境



捕獲状況

② 囲いわな例



設置環境



捕獲状況

③ くくりわな例



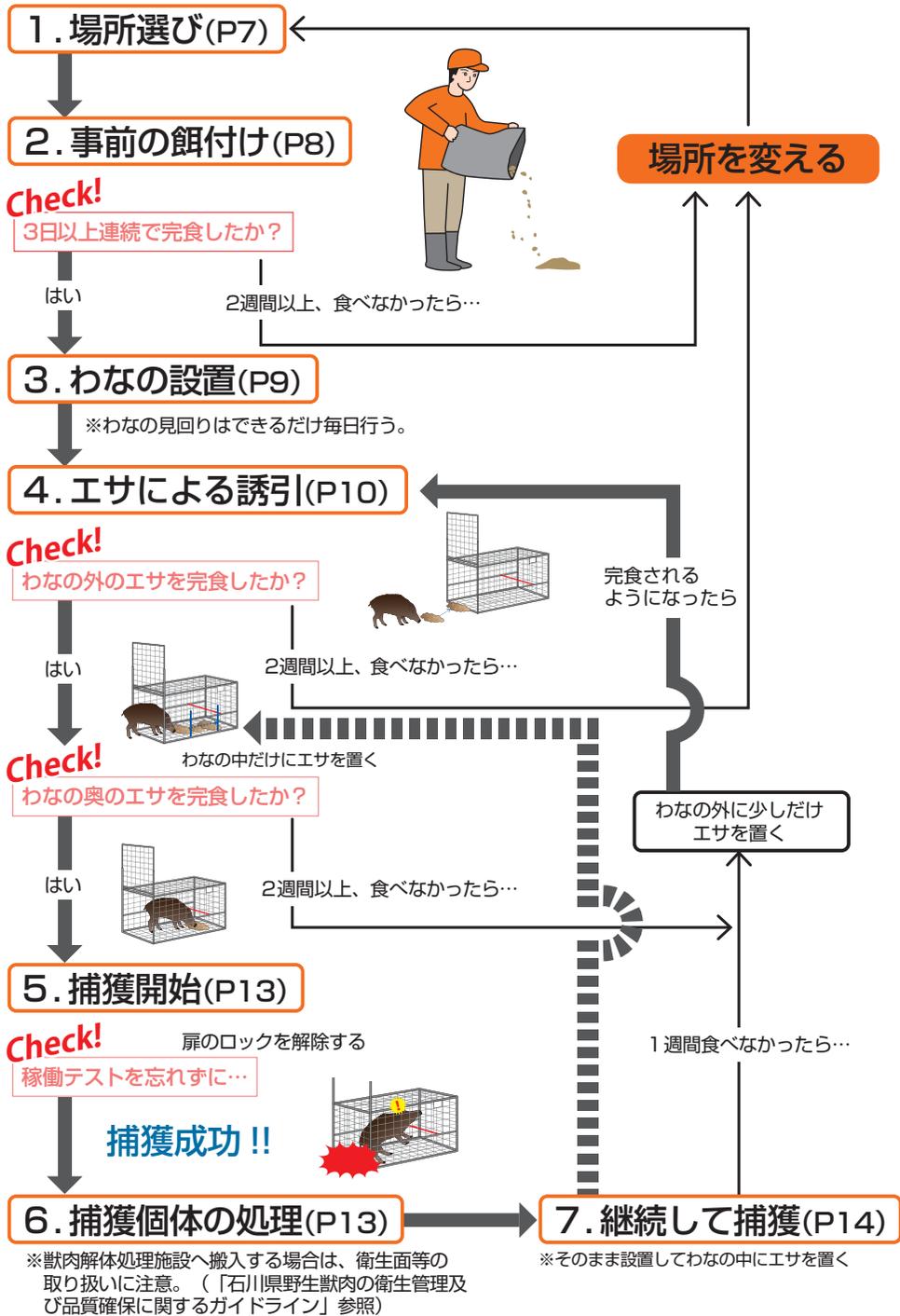
設置環境



捕獲状況

箱わな・囲いわなの捕獲フロー

はじめに全体の捕獲フローを見ておきましょう。チェックポイントを確認してフローに沿って捕獲作業を進めます。



箱わな・罠いわなの捕獲手順

1. 場所選び ※イノシシがたくさんいる場所を見つける

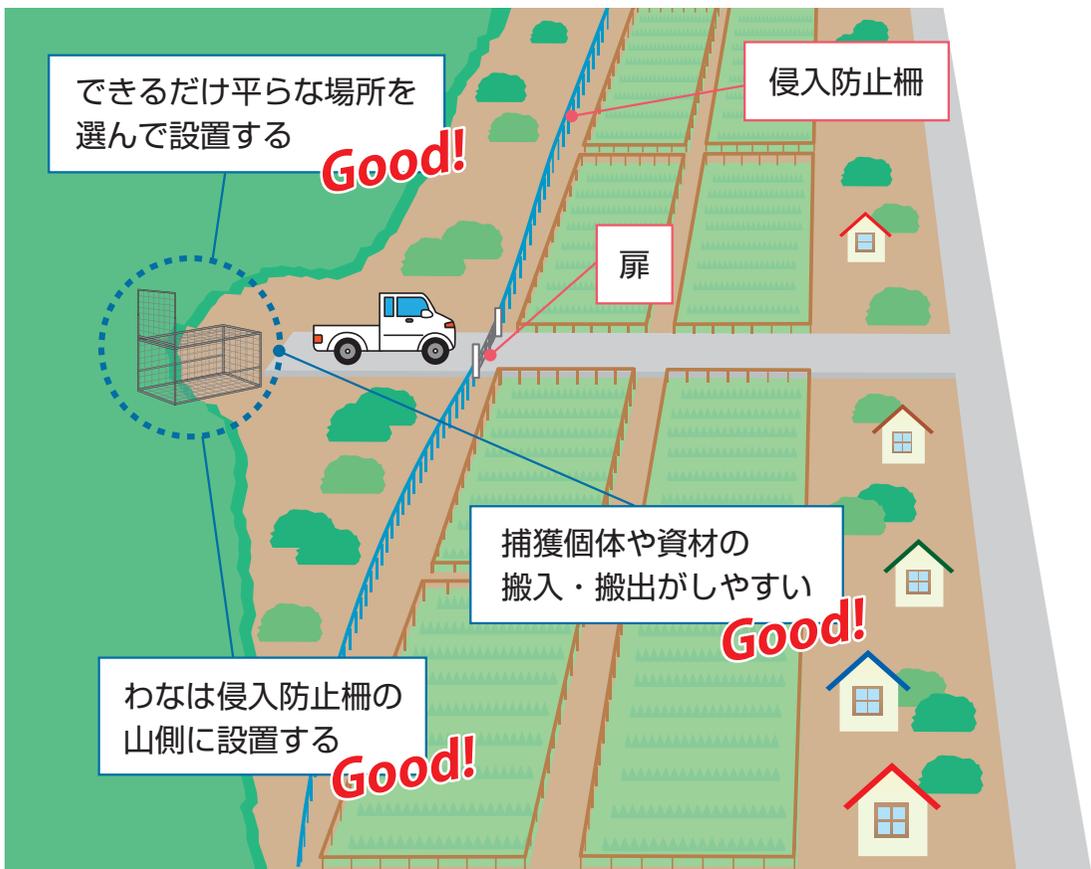
① わなの設置場所を決める。

「車でのアクセスが容易」「人家から十分離れている」「設置に十分な面積の平地」「人目につきにくい」「山に近い」「土地所有者から許可が得られる」等の条件を満たす場所を選ぶ。

② 出没状況を把握する。

「フィールドサイン（足跡・糞・泥こすりの跡・食痕）※」「被害・目撃情報」等を基に場所を選ぶ。 ※資料 P26～27 参照

《場所選びのポイント》 ※わなの設置については P9 参照



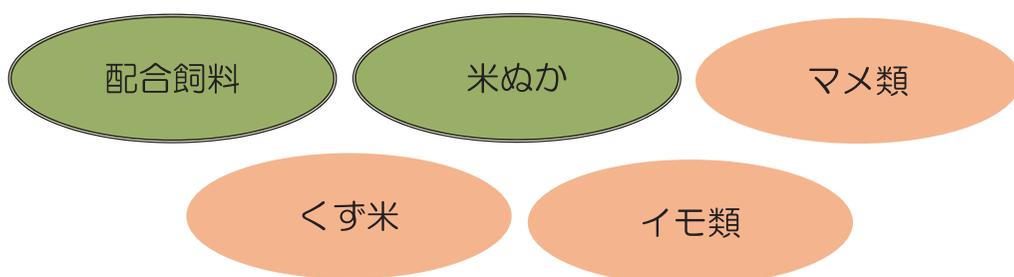
2. 事前の餌付け ※イノシシにエサの味を覚えさせる

- ①わなの設置前に餌付けを始める。
- ②何種類かのエサを少しずつまく。
エサの好みは、地域や季節によって異なります。まずは誘引するイノシシの好みを調べるのが肝心です。
- ③毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ④3日以上連続してエサが完食されるまで継続する。
2週間以上エサが完食されていない場合は、エサの種類や餌付け場所の変更を検討する。⇒ [1. 場所選び \(P7\) へ](#)

《誘引に使われるエサの種類》

エサは、誘引力が強く、安価で扱いやすい（腐りにくく、入手しやすい）ことがポイントです。

栗等の落ちた果樹を食べに来ている場合は、それをわなの中に入れると有効です。



●個体によって、エサの好みが変わります。上記の他にもよく使われるエサは以下のとおりです。

トウモロコシ、リンゴ、みかん、栗、酒かす、油かす、塩 等

以下、成獣の捕獲を目標とした、わなの設置～捕獲までの流れの例を解説します。

3. わなの設置 ※イノシシが入りやすいわなは？

①毎日エサが完食されるようになったら、わなを設置する。

②イノシシの目線に立ち、入りやすいと思えるような位置や向きにわなを設置する。

●イノシシは警戒心が強いので、以下のことに注意し、わなの設置を工夫する。

- ・傾斜地に設置する場合は、山の等高線に沿って設置する。
- ・わなの扉（入口）は通り道側にし、扉側は見通しのよい場所に設置する。
- ・わなの周りは草の刈り払いをしておく。

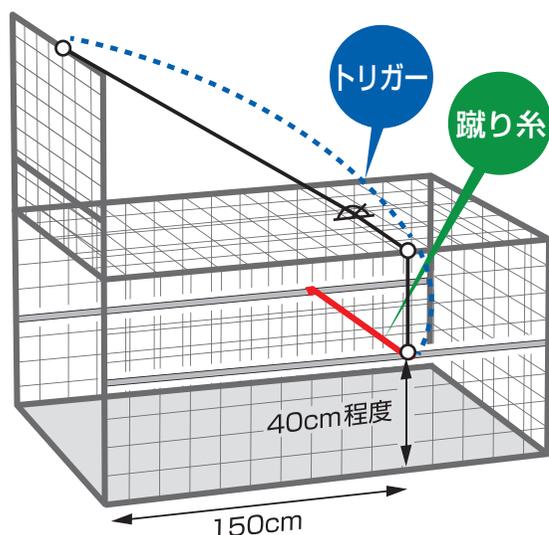
●イノシシが完全に餌付く前にわなが閉まらないように、扉はしっかりと固定する。

③蹴り糸をセットする。※センサー付きのわなについては、センサーもセットする。

繁殖力の強い大型の個体を捕獲するため、蹴り糸は、地面から40cm以上の高さで、わなの入り口から3/4ほどの位置に設定する。
(ウリ坊を捕獲する場合の蹴り糸は、地面から40cm未満にする)

③餌付け期間中は、イノシシが蹴り糸に触れたら緩んで外れるように軽く結んでおく。

《蹴り糸の奥行きと高さの設定について》



- ・蹴り糸の高さを40cm以上に設定することで、ウリ坊*やタヌキ等の中型動物による誤作動を防ぐことができます。
- ・ウリ坊だけ捕獲していると、繁殖力の強い大型の個体が警戒して、箱わなや囲いわなでは、捕獲できないイノシシが増加します。

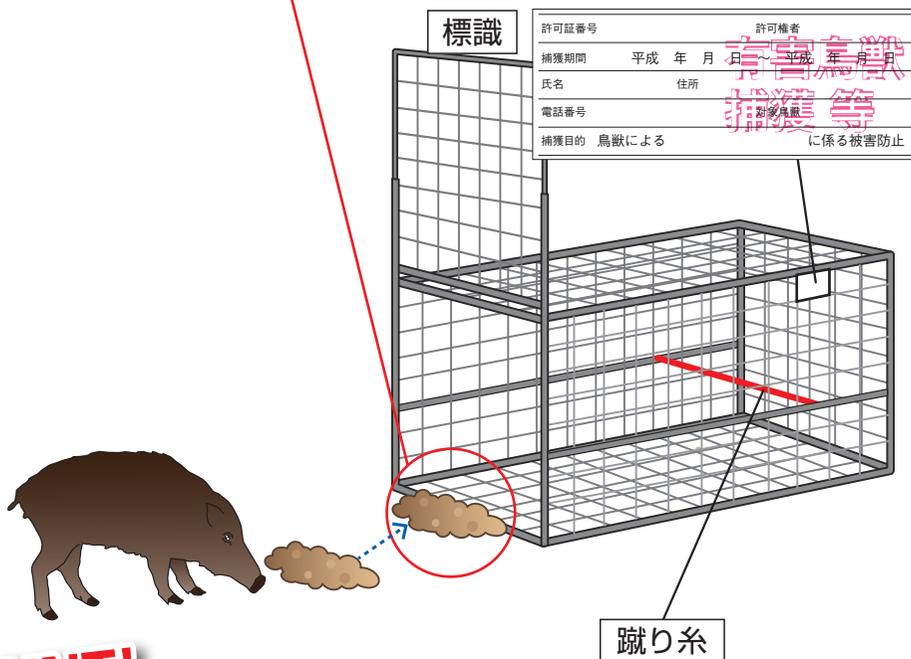
※ウリ坊：生後5ヶ月頃までの幼獣は縞模様の毛皮で、ウリの実に模様が似ていることからこう呼ばれる。

※図は、奥行き2mの箱わなでの設置例
(トリガーもメーカーによっていろいろ)

4. エサによる誘引 ※イノシシにエサ場と認識させる

■ イノシシをわなに近づける

- ①少し離れたけもの道から、徐々にわなへと誘導するようにエサ*をまく。
※エサの量の目安（米ぬかの場合）：4kg（20ℓバケツ1杯）/回程度。
- ②毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ③完食されるようになったところにはエサを置かないようにするか、追加するエサの量を少しずつ減らしていく。
- ④最後には扉の下のエサだけを残し、確実にイノシシをおびき寄せる。



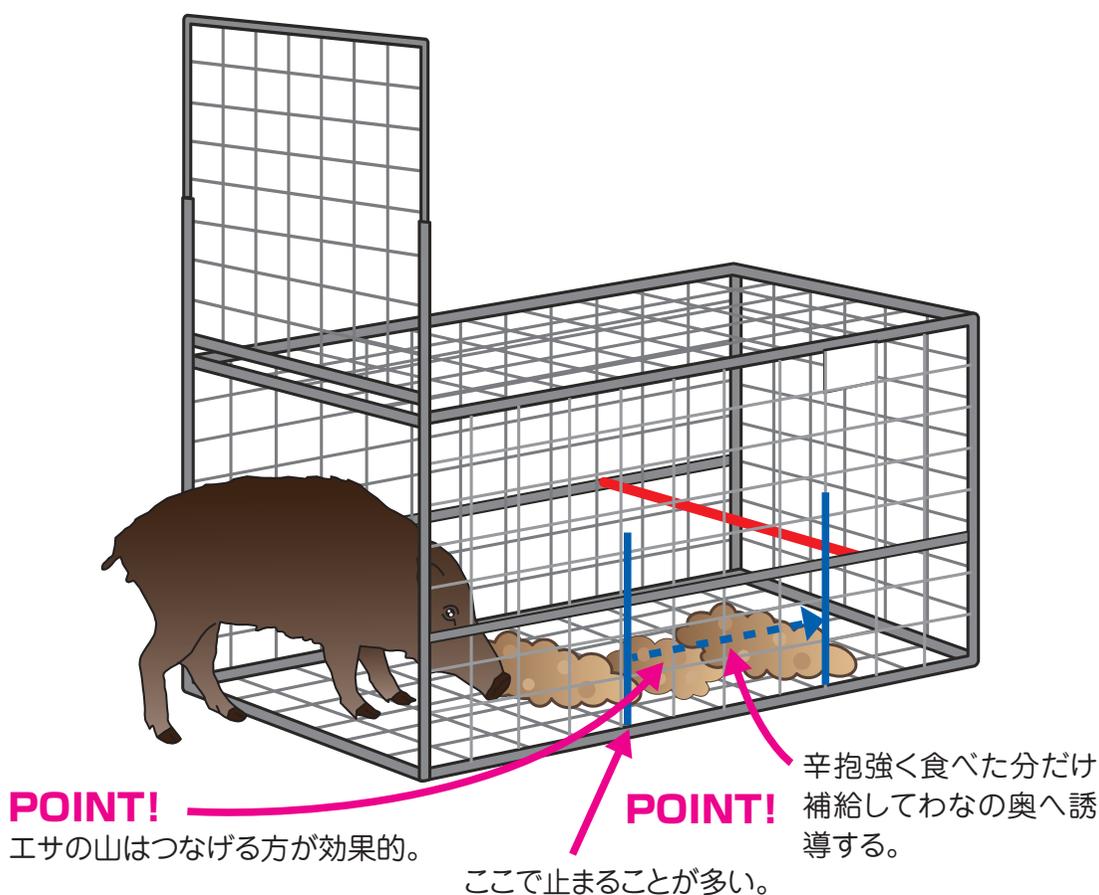
POINT!

- 最初は、わなの中にエサを置かない。
- 毎日エサを追加することで、イノシシは、わなを魅力的なエサ場と認識するようになる。雨で濡れたりして腐ったら取り除き（わなの外に捨てずに持ち帰る）、新しいエサを置く。
- 足跡を観察し、イノシシの寄り付き具合を想像することも、捕獲技術の向上につながる。

4. エサによる誘引 ※イノシシにエサ場と認識させる

■ イノシシをわなの中へ誘い込む

⑤扉の下のエサが完食されるようになったら、わなの中に入らないとエサが食べられないように、少しずつわなの中に誘導するようにわなの中だけにエサを置く。



【エサによる誘引が必要な理由】

◆理由①

群れで行動するイノシシを誘引する場合、警戒心の低いウリ坊は、すぐにわなに入ってエサを食べようになりますが、成獣がわなに入るには時間がかかります。十分に餌付く前に扉を落としてしまうと、成獣を捕獲することは難しくなります。

◆理由②

周辺のイノシシにエサの味をしっかりと覚えさせておくことで、同じ場所で続けて捕獲できる可能性が高くなります。

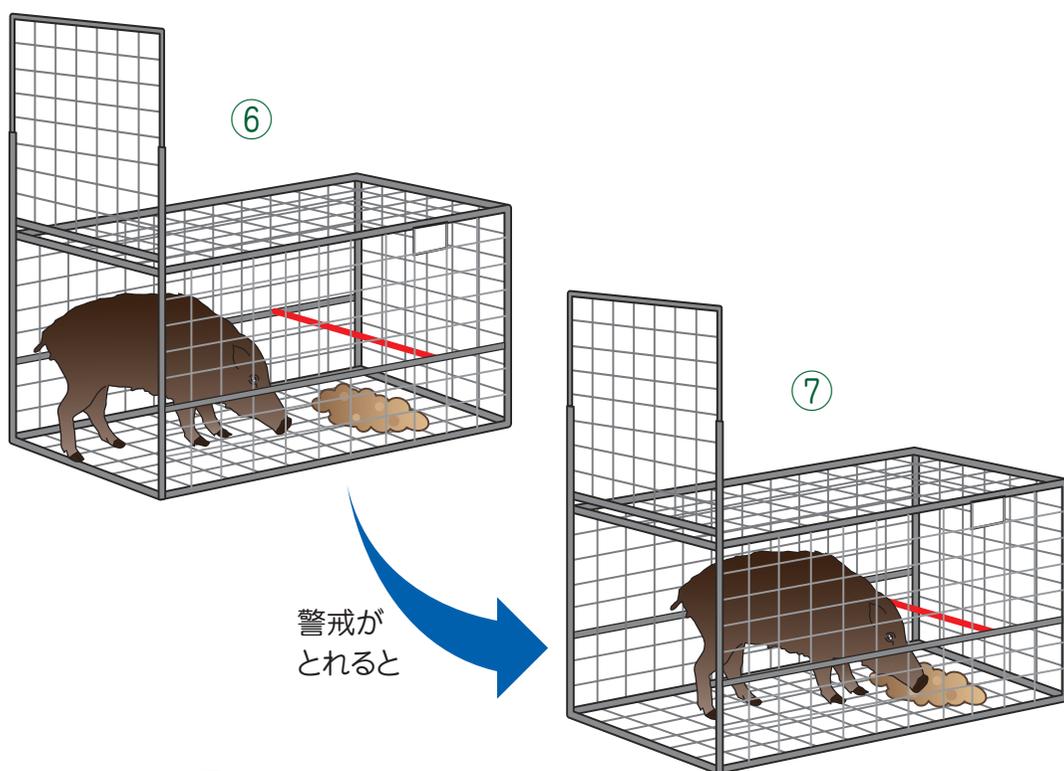
4. エサによる誘引 ※イノシシにエサ場と認識させる

■ イノシシをわなの奥まで誘い込む

⑥毎日、わなの中のエサを食べるようになったら、わなの奥だけにエサをまく。

わなに入るようになったら、手前にエサをまくのはやめます。
わなに対する警戒心が戻ってしまうからです。

⑦わなの奥のエサが毎日完食されるようになるまで、餌付けを続ける。



POINT!

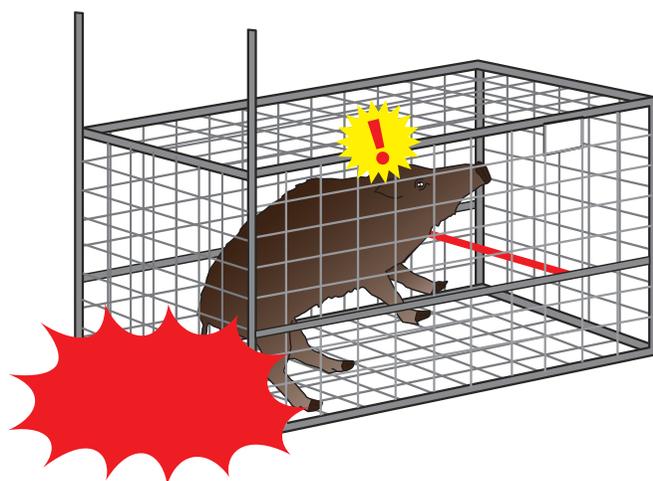
●足跡を見て、大型の個体がわなに入るようになったことを確認したら、もう一息!

警戒を解く餌付けを続けて、一気に奥まで誘い込みましょう。

●わなをエサ場と認識すると、毎日奥のエサまで完食するようになります。

5. 捕獲開始(トリガーをセットする)※餌付けたイノシシを確実に捕獲する

- ①扉のロックを解除し、スムーズに扉が落ちることを確認する。
※サビ等で扉の動きが悪い時は、食用油や潤滑油を塗布する。
- ②イノシシの進入に合わせて、正常にわなが作動するか、各部の稼働状況を確認する。
蹴り糸、トリガーがきちんと作動するか、設定を確認する。
※センサー付きのわなについては、センサーの設定も確認する。
- ③わなの一番奥にエサを追加して、捕獲を開始する。



【注意!】

◆捕獲時の確認事項

- ・落とし扉が完全に落ちていること。
- ・扉の開放防止装置（ストッパー）が確実に作動していること。
- ・わなに破壊箇所がないこと。

6. 捕獲個体の処理 ※安全に作業を行う

- ①止めさし等の処理は、関係法令及び有害鳥獣捕獲許可の内容と許可条件に基づいて適切に行うこと。銃で行う時は、跳弾に注意して行う。
- ②獣肉解体処理施設へ搬入する場合は、衛生面等の取扱いに注意すること（参考：「石川県野生獣肉の衛生管理及び品質確保に関するガイドライン」）。

7. 継続して捕獲

※効率よく捕獲を続けることが目標

①周囲に捕獲可能なイノシシが残っていないか、捕り逃しが発生しないか確認する。

捕獲後は、わなの中にエサを置き、他のイノシシの存在を確認します。

※1回捕獲に成功すると、2週間くらいで別の群れが来る事が多い。

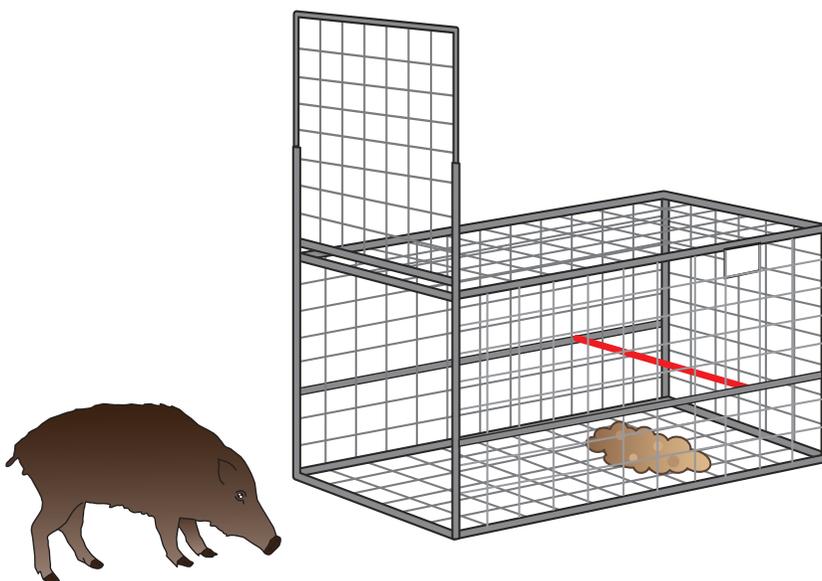
②エサの食べ方をみる。

・わなの中のエサが完食されるようになったら

⇒ [4. エサによる誘引⑤\(P11\)](#) へ

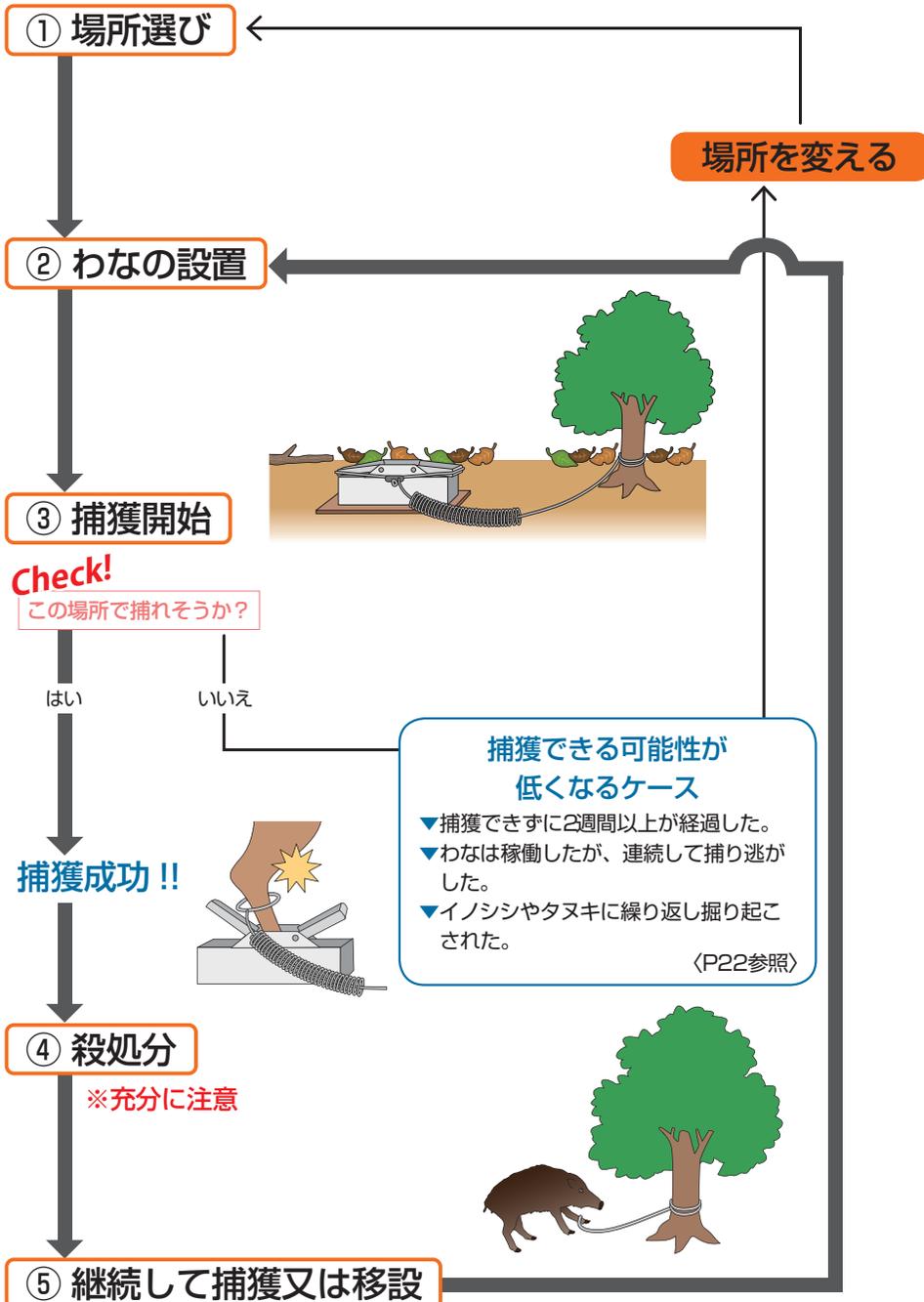
・1週間たっても食べなかったら、わなの外にエサを置き、完食されるまで待つ。

⇒ [4. エサによる誘引④\(P10\)](#) へ



くくりわなの捕獲フロー

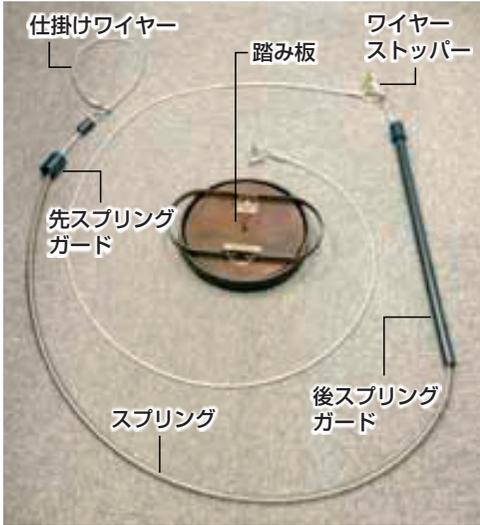
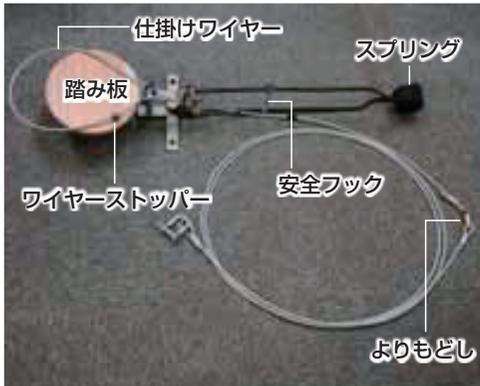
はじめに全体の捕獲フローを見ておきましょう。チェックポイントを確認してフローに沿って捕獲作業を進めます。



くくりわなの捕獲手順

くくりわなとは？

野生動物が踏み込んだり、仕掛けに触れることでわなが作動し、ワイヤーが足首を固定する仕組みです。わなの構造と稼働方向で4タイプに大別できます。

	1. 縦に引く (跳ね上げ式)	2. 横に引く
A 押しバネ式		
B 松葉式バネ		

1. 場所選び ※イノシシがたくさんいる場所を見つける

①イノシシの新鮮なフィールドサイン※を見つける。

※資料 P26 ~ 27 参照

重要!

②イノシシが頻繁に利用しているけもの道※を探す。

※資料 P27 参照

③わなの設置条件に合った場所を探す。

安全面から、可能な限り根付けの近くに設置する（捕獲する時にイノシシの可動域が狭く安全性が増す）。

《くくりわなの設置場所の選び方の例》

適	不適
<ul style="list-style-type: none"> ●イノシシが頻繁に利用していて、くっきりと目立つけもの道がある場所 ●けもの道が細くなっていて、わなを置く位置が絞りやすい場所 ●けもの道の傾斜が緩くなった場所 ●ワイヤーの届く範囲にしっかりした根付け※がとれる場所 ●穴を掘りやすく、環境を復元しやすい乾いた土質の場所 ●人があまり立ち入らない場所 ●離れた安全な場所から、イノシシが捕獲されたかどうか、ワイヤーの状態等を確認できる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ×イノシシがエサを探して土を掘り起こしている場所 →わなが掘り起こされたり、誤作動することが多い ×水はけの悪い場所や、砂利や木の根等の障害物が多い場所 →わなが正常に作動しなくなる ×けもの道の幅が広く、わなを置く位置を絞りづらい場所 ×斜面の傾斜が急な場所 →足場が悪く作業時の安全が確保できない。けもの道が崩れやすく、わなが埋もれたり、誤作動が起きやすくなる ×人がよく活動利用する場所 →事故が発生する可能性が高くなる ×他人の箱わなに通じている道は避ける →トラブルになる可能性がある

※根付け：くくりわなのワイヤーの根元を固定しておく樹木等

ポイント くくりわなの設置場所の選び方

●近くに丈夫な根付けがとれること
イノシシが暴れても折れない、しっかりした樹木を選びましょう。

●けもの道がくっきりしている
イノシシが頻繁に利用するので、捕獲できる可能性が高くなります。

●けもの道が細い
わなを置く場所を絞りやすくなります。

●傾斜が緩い
足場を確保しやすく、安全な作業ができます。

●けもの道の幅が広い
イノシシが自由にコース取りできるため、わなの中心を踏ませるのが困難です。

●水はげが悪い
わなが露出したり、正常に作動しない原因になります。

●急傾斜地である
けもの道が崩れやすく、わなが露出したり、土砂で埋もれてしまいます。

●石や木の根が多い
穴を掘りにくかったり、正常に作動しない原因になります。

●イノシシのイサ場
わなが掘り起こされたり、誤作動することが多くなります。

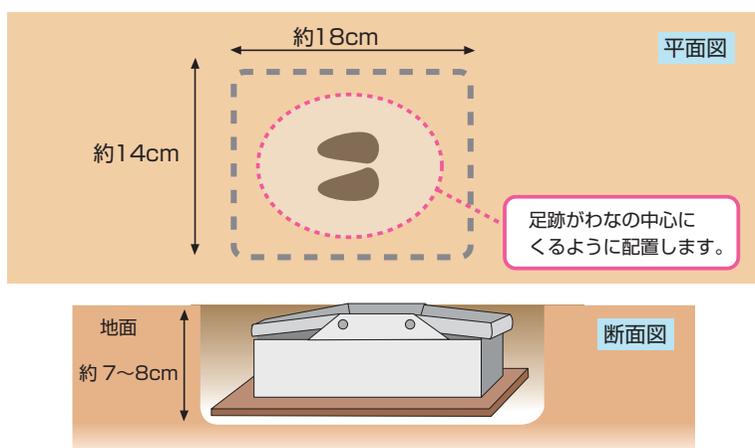
2. わなの設置 ぐくりわなの設置手順（踏み板式ぐくりわな）

※このプログラムでは、「踏み板式ぐくりわな」を例に設置手順を紹介しています。わなの設置方法や留意点は製品ごとに異なるため、使用する製品のマニュアルに従ってください。

① わなをセットする。

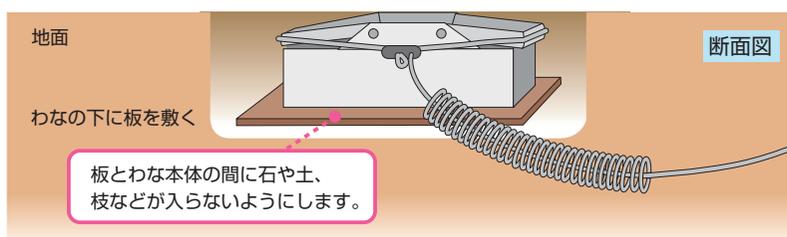
② けもの道と平行に、わなが隠れるだけの穴を掘る。

掘る穴の深さは、上に薄く土をかけた時に地面と同じ高さになるくらいが目安。



③ 穴の底に板を敷き、その上にわなの本体を置く。

板とわなの間に石や土、枝等が入らないようにする。

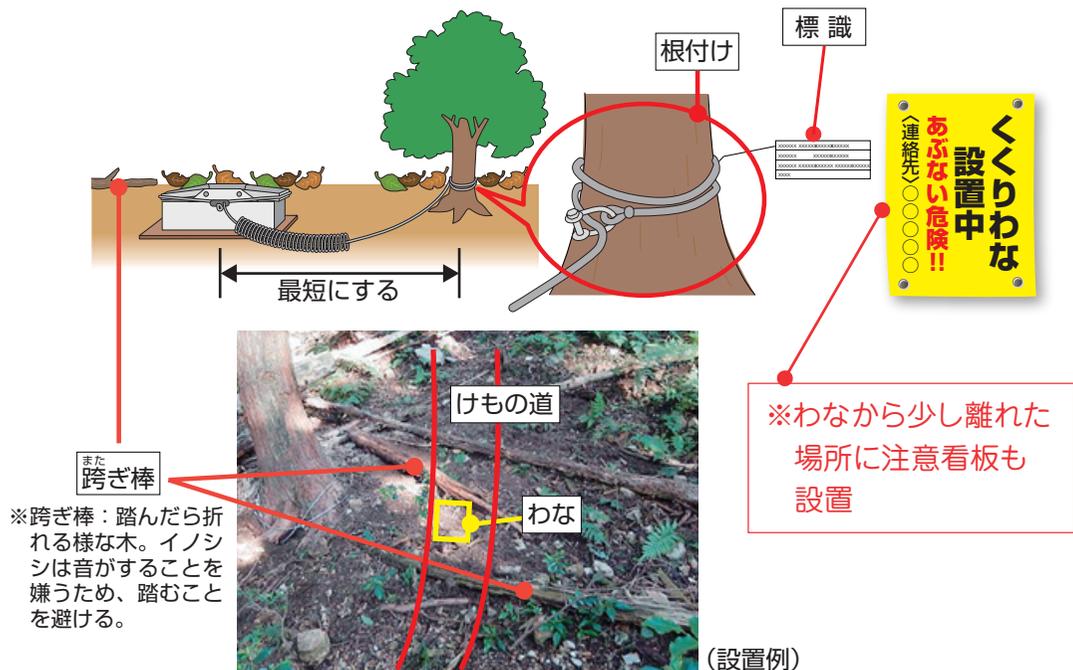


【注意!】

ツキノワグマの錯誤捕獲のおそれがあるため、ぐくりわなの輪の直径が12cmを超えるものは、使用できません。

2. わなの設置 くくりわなの設置手順（踏み板式くくりわな）

- ④ 乾いた土や落ち葉でわなを完全に覆い隠す。
- ⑤ シャックル（ワイヤーロープの先端などに連結する U 字形の連結金具）を利用して、ワイヤーの根元を根付け木の幹に固定する。
- ⑥ バネやワイヤー等も見えないように埋め隠す。
- ⑦ 環境を元通りに復元する。
- ⑧ 木の枝や石（跨ぎ棒[※]）を利用して、イノシシが足を置く場所を誘導する。
イノシシやシカは、木の枝や石を避けて歩く習性がある。



【注意!】

- ◆ わなの覆いにバネの稼働を妨げるようなものは使用しない。
枝、土のかたまり、長い丈の草、小石等は取り除いておく。
- ◆ 根付けに使う木は、捕獲したイノシシが暴れても折れない、丈夫なものを選ぶ。

3. 捕獲開始 ※常に捕獲できる状態を保つことが大切

重要!

- ① 1日1回は必ず見回りを**する**。
※長く放置すると、ワイヤーを切るか、自分の足をかじって逃げることもあるため危険。
- ② わなの状態やイノシシの足跡、足の運び方等を確認**する**。
- ③ わなやワイヤーが露出していたら必ず埋め戻**す**。
- ④ 誤作動したわなは放置せず、すぐに再設置するか撤去**する**。

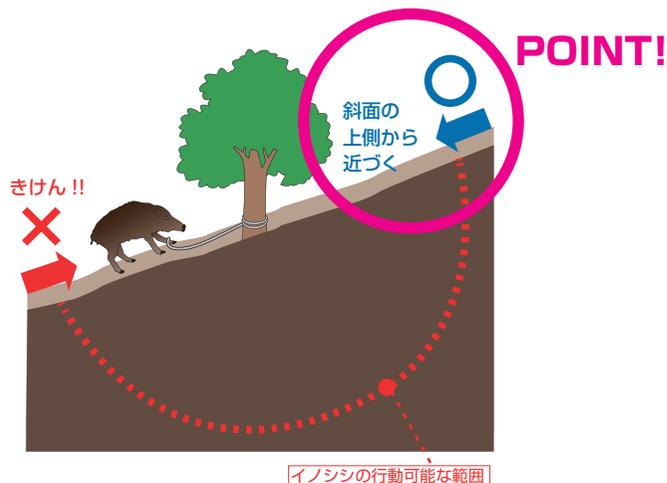
POINT!

●足跡のつき方を観察し、イノシシの行動を知ることで、捕獲技術は向上**する**。

4. 止めさし ※何よりも安全に作業を行うことが大切

- ① 捕獲されたイノシシは、人に向かってくる性質があるため、不用意に近づかず、イノシシの興奮状態や、くらわれている足の状態、ワイヤーのかかり具合、捕獲場所の環境等を確認し、最適な止めさしの方法を選択**する**。
- ② 捕獲個体の保定や止めさしを行う際は、イノシシの行動可能な範囲を確かめて近づく**こと**。

※設定場所が斜面の場合は、必ず斜面の上側から近づく**こと**。
(飛びかかれての事故が多いので注意)



5. 継続して捕獲又は移設

※効率よく捕獲を続けることが目標

- ①捕獲後の環境を見て、わなを埋め戻すか、移設するか判断※する。
わなを移設する際には、捕獲場所の環境を復元しておきましょう。

※下記「わな移設のタイミング」参照

- ②事故防止のため、ワイヤー、締付防止金具、よりもどし等の消耗品については、捕獲のたびに新しいものと交換する。

わな移設のタイミング

※次のような状況になった場合は、わなの移設を検討!

- ◆ わな設置後、2週間以上イノシシが捕獲されなかった
- ◆ わなは設置したが、連続して捕り逃した
- ◆ イノシシやタヌキにわなが繰り返し掘り起こされた
- ◆ 降雨による水没、積雪等で、わなが機能しなくなった
- ◆ 明らかにイノシシに回避されたような痕跡を確認した
- ◆ シカやイノシシを捕獲後、設置環境がひどく荒れた

注意事項

- 野生動物の捕獲には許可が必要です。

このプログラムは、法令に基づいた捕獲許可等を受けた方を対象に作成しています。

法令やマナーを守って、安全に捕獲を行ってください。

- わなの特徴をよく知り、環境や状況にあったわなを、効果的に配置しましょう。

捕獲のマナー

- 捕獲時の対応は迅速に!

捕獲したイノシシを長時間放置すると、事故の発生や捕獲効率の低下につながります。

- わなのメンテナンス（手入れ、修理）はこまめに!

切れかかったワイヤーや、接合部が傷んだわなを使い続けると、深刻な事故につながるおそれがあります。

- エサのやり過ぎに注意!

過剰なエサやりは、残ったエサが腐って悪臭や害虫が発生等し、トラブルの原因となります。

- 餌付けたイノシシは確実に捕る!

放置しておくで、周辺の農業被害をさらに増してしまうおそれがあります。

- 仕掛けのセットは最短で!

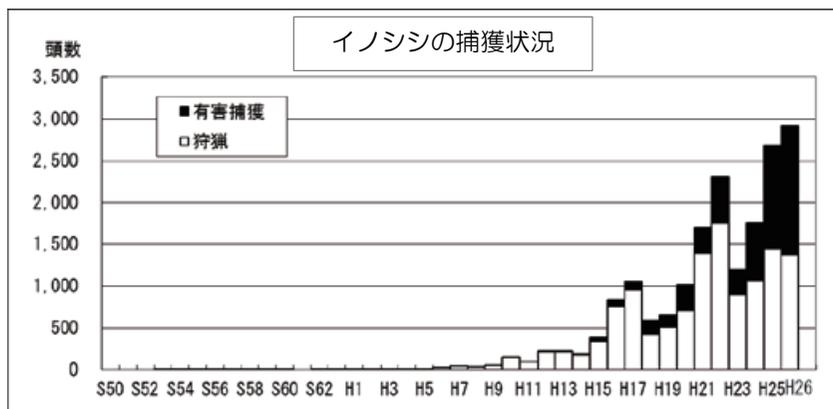
捕獲待機状態のまま長時間放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

資 料

1. 石川県のイノシシの捕獲と被害状況

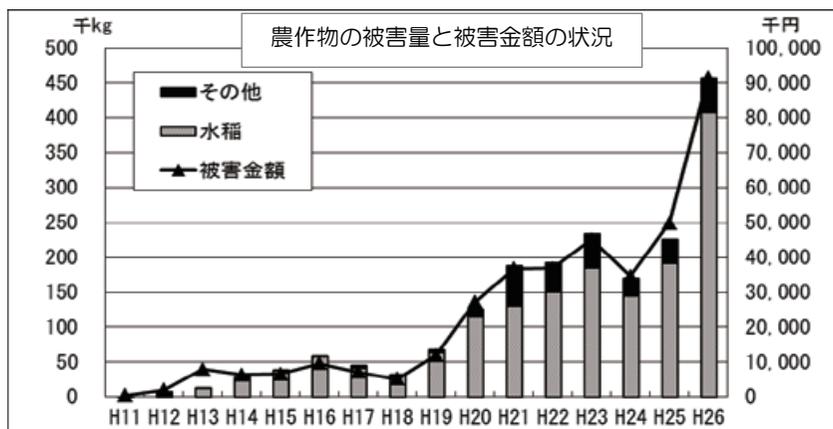
捕 獲

昭和21年度からの鳥獣関係統計を見ると、昭和28年度まではイノシシの捕獲実績がなく、昭和29年度から昭和50年代初めまでは断続的に数頭が捕獲されていた。その後は、毎年捕獲されるようになり、平成5年度までは10頭以下の捕獲数にとどまっていたが、平成6年度からは徐々に捕獲数が増え始め、平成12年度からは有害捕獲でも捕獲されるようになった。



被 害

イノシシによる被害は平成10年に加賀市（旧山中町）で穂が出たばかりのイネをイノシシが踏み倒したとの記録があり、これが本県でのイノシシ被害の始まりである。その後、加賀市、小松市と被害地が増え、平成22年には、奥能登2市2町にまで広がり、さらに、平成25年には、川北町、野々市市、内灘町を除く16市町に被害が拡大した。



2. イノシシのフィールドサイン

捕獲にあたっては、対象となる野生動物を特定するためにフィールドサイン（生活痕跡）を読み取り、対策を立てます。

足 跡



イノシシの足跡



ニホンジカの足跡

シカの足跡に比べ、全体に丸みがかっているのが特徴。副蹄の跡は残らないことが多い。

糞



イノシシの糞



ニホンジカの糞

新鮮な糞は固まっているが、時間が経つと乾燥してシカの糞のようにバラバラに崩れることがある。

泥こすりの跡



木の幹についた泥の跡



又夕場

イノシシは、又夕場で泥浴びする習性があります。泥浴びの時に体にこすりつけた泥が、移動時や泥こすりの際に立木や下草につきます。

けもの道



草地についたけもの道の様子



イノシシが歩くと下草に泥がつきます

食 痕



植物の掘り起し跡



なぎ倒された稲

関係行政機関連絡先

◇鳥獣管理、狩猟、有害捕獲について

行政機関名	住所	電話番号
環境部自然環境課	金沢市鞍月1-1	076-225-1477

◇鳥獣による農作物被害対策について

行政機関名	住所	電話番号
農林水産部農業安全課	金沢市鞍月1-1	076-225-1626

◇獣肉利活用全般について

行政機関名	住所	電話番号
農林水産部里山振興室	金沢市鞍月1-1	076-225-1631

◇鳥獣による農作物被害対策、鳥獣管理、狩猟、有害捕獲について

行政機関名	住所	電話番号
農林水産部 南加賀農林総合事務所管理部	小松市園町ハ108-1	0761-23-1707
農林水産部 石川農林総合事務所管理部	白山市馬場2-113	076-276-0528
農林水産部 県央農林総合事務所管理部	金沢市戸水2-30	076-204-2100
農林水産部 中能登農林総合事務所管理部	七尾市小島町二部33	0767-52-2583
農林水産部 奥能登農林総合事務所管理部	輪島市三井町洲衛10-11-1	0768-26-2320

◇鳥獣による農林産物等の被害、有害捕獲について（市役所、町役場の環境または農林等の担当課）

行政機関名	住所	電話番号
小松市農林水産課	小松市小馬出町91	0761-24-8081
加賀市農林水産課	加賀市大聖寺南町二41	0761-72-7884
能美市農政課	能美市寺井町た35	0761-58-2256
川北町産業経済課	能美郡川北町字吉ツ屋174	076-277-1111
白山市林業水産課	白山市鶴来本町4-又85	076-272-1965
野々市市産業振興課	野々市市三納1-1	076-227-6081
金沢市産業振興課	金沢市広坂1-1-1	076-220-2213
かほく市産業振興課	かほく市宇野気二81	076-283-7105
津幡町農林振興課	河北郡津幡町字加賀爪二3	076-288-6704
内灘町地域振興課	河北郡内灘町字大学1-2-1	076-286-6708
七尾市農林課鳥獣被害対策室	七尾市袖ヶ江町イ25	0767-53-8422
羽咋市農林水産課	羽咋市旭町ア200	0762-22-1116
志賀町農林水産課	羽咋郡志賀町末吉千古1-1	0767-32-9224
宝達志水町農林水産課	羽咋郡宝達志水町子浦そ18-1	0767-29-8240
中能登町農林課	鹿島郡中能登町井田4部1-1	0767-76-2434
輪島市農林水産課	輪島市二ツ屋町2字29	0768-23-1141
珠洲市産業振興課	珠洲市上戸町北方1字6-2	0768-82-7767
穴水町産業振興課	鳳珠郡穴水町字川島ウ174	0768-52-3670
能登町農林水産課	鳳珠郡能登町字柳田仁部54	0768-76-8302

■参考文献等

香川県 イノシシ捕獲技術プログラムVer.1
農林水産省 改訂版 野生鳥獣被害防止マニュアル
 イノシシ・シカ・サル 実践編

※香川県、農林水産省の許可を得て、引用しました。

■写真提供

濱崎 伸一郎、岸本 真弓、山元 得江(株)野生動物保護管理事務所)

石川県イノシシわな捕獲マニュアル

平成27年10月発行

【発行】石川県環境部自然環境課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1

電話:076-225-1477

